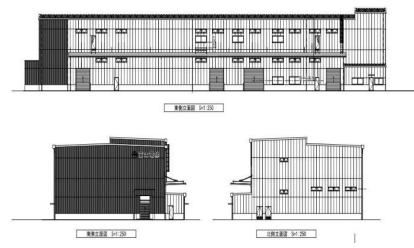


CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	富士電線工業株式会社 新工場新築	階数	地上2F
建設地	大阪府柏原市本郷	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	366 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2024年4月22日
敷地面積	4,016 m ²	作成者	池田 修也
建築面積	1,930 m ²	確認日	2024年4月27日
延床面積	3,667 m ²	確認者	永野隆彦



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.5

Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	ライフサイクルCO ₂ 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。	その他 特になし。
Q1 室内環境	評価対象外。	Q2 サービス性能 階高: 3.9m以上 0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3
Q3 室外環境(敷地内)		Q3 室外環境(敷地内) 植栽により、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	BEIm = 0.69	LR2 資源・マテリアル LGSを使用している。 発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。
		LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率85%。 燃焼機器を使用していない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		富士電線工業株式会社 新工場新築工事					
建設地		大阪府柏原市本郷					
用途/区分		工場					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B-	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	断熱性能					評価対象外	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分			評価対象外	評価対象外
④	エネルギー消費性能					4	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分			評価対象外	評価対象外
⑤	自然エネルギー 直接利用					—	
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない	
【評価項目】							
項目		評価内容				スコア	評価
① CO2削減		CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮				3.6	4
② みどり・ヒートアイランド対策							
生物環境の保全と創出		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出				1.0	2
敷地内温熱環境の向上		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	
温熱環境悪化の改善		CASBEE LR3 敷地外環 2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	
③ 断熱性能		CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					
④ エネルギー消費性能		CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化				4.1	4
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用				3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない
その他							
		技術の名称			考慮事項		
先進的技術の導入							
特に配慮した事項							